

## 第1節 地 形

### 1. 概説

松江市は、東西にそれぞれ日本有数の汽水湖である中海と宍道湖を有し、北に日本海、南に中国山地を臨む場所に位置する（P.1-a）。松江市の地形の特徴を説明する前に、松江市を含む島根県の地形の特徴を、ほかの都道府県と比較して述べる。表1-1-1は、全国の都道府県ごとに計算された地形別の面積および割合を示す。ここでいう地形とは「山地」、「丘陵地」、「台地」、「低地」、「内水域等」を指し、湖沼・河川等の面積を含まない。表1-1-1によると、島根県の山地の面積および割合は4,845 km<sup>2</sup>（72.2%）、丘陵地は1,182 km<sup>2</sup>（17.6%）、台地は7 km<sup>2</sup>（0.1%）、低地は495 km<sup>2</sup>（7.4%）、内水域等は183 km<sup>2</sup>（2.7%）である。それぞれの地形の割合を全国平均と比較すると、「山地」は全国平均61.0%に対し島根県72.2%、「丘陵地」は全国平均11.8%に対し島根県17.6%と、山岳地形の割合は島根県の方が高く、逆に「低地」は全国平均13.8%に対し島根県7.4%と全国平均の方が高いため、島根県は山の多い県であることが分かる。

また、表1-1-1は地形に加え、傾斜度別（0 - 3°、3 - 8°、8 - 15°、15 - 20°、20 - 30°、30°以上）に計算された面積とその割合も示す。一般的に、「日本の国土は7割が山地、3割が平地」といわれるが、その理由は、ほぼ平地と考えられる0 - 3°の土地と緩傾斜地である3 - 8°の土地面積の割合の合計が28.6%であることによる。島根県の場合は、平地に分類される土地面積の割合の合計が15.9%であるため、「島根の土地は8.5割が山地、1.5割が平地」であることが分かる。平地（傾斜度0 - 3°および3 - 8°の合計）の割合が高い都道府県は、第1位千葉県（79.8%）、第2位茨城県（72.9%）、第3位埼玉県（64.5%）、第4位東京都（58.9%）、第5位大阪府（58.0%）であり、いずれも大規模

な平野に属している。島根県は第41位であり、日本の中でも特に山地が多い地域である。表1-1-1のデータのうち、地形別および傾斜度別面積の割合をP.2-a, bにグラフとして示した。

松江市は2011年（平成23）までの松江市、<sup>かしま</sup>鹿島町、島根町、美保関町、八雲村、玉湯町、宍道町、八束町、東出雲町による市町村合併により面積が572.99 km<sup>2</sup>となった。これは、全国都道府県の県庁所在地の中では18番目の大きさである（表1-1-2）。しかし、全国的には上位3分の1程度の大きさであるものの、中国地方5県の中で比較すると、ほかの4県の県庁所在地である山口市（第4位、1,023.23 km<sup>2</sup>）、広島市（第5位、906.53 km<sup>2</sup>）、岡山市（第11位、789.96 km<sup>2</sup>）、鳥取市（第14位、765.31 km<sup>2</sup>）より小さい（2015年10月1日現在）。

2017年（平成29）3月末時点での松江市域は、国土地理院発行の5万分の1地形図「松江」、「今市」、「<sup>えとも</sup>恵曇」、「美保関」、「境港」の各図幅にまたがる。P.3-a~P.5-aは、1975年（昭和50）前後にこれらの図幅を用いて作製された地形分類図である。地形分類図により、松江市およびその周辺の山、丘陵、平地、川の分布を確認できる。松江市の地形は、市の北部における日本海に沿った標高500m前後の山頂が連なる島根半島の山々と、市の南部における最高600mの中国山地北端の山々、およびそれらに囲まれた宍道湖・中海を中心とする平野部によって特徴付けられる。すなわち、松江市の南北方向の断面図を描くとU字型となる。U字の底に当たる宍道湖・中海を含む低平地は宍道地溝帯（澤田ほか、2001）と呼ばれる。

松江市は日本海に面しているが、海沿いには平地がほとんどなく、急峻な斜面がそのまま海に接している場所が多い。そのため、平野が発達する宍道湖や中海の周辺に市街地が形成されている。県庁や市役所といった公共